

2020年度 学校評価総括表 伊丹市立荻野小学校

教育目標		自ら学び、熱く、生き抜く子どもの育成						
重点目標		○支持的風土の学級づくり ○学習指導の充実(確かな学力の向上) ○規範意識の高揚と生活習慣 ○体力の向上 ○防災・安全教育の徹底 ○開かれた学校づくりの推進						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識・技能を習得させる。 ・自ら考え、伝え合う力を育む。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字・計算の小テストを単元ごとに繰り返し実施する。 ・学年に応じた復習プリント(計算・文章題・国語の読み取り問題)を取り入れ、継続的に学習する。 ・校内研修としてすべての教員が年一回以上授業を公開する。 ・児童の実態を把握し、学年ごとに基礎学力の定着を目的とした補充を行う。 ・授業の中のめあてを明確にするとともに、児童が振り返る時間を設定する。 ・ICT機器を活用し、工夫した授業づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字・計算の小テストの正答率を80%以上にする。 ・学校全体として授業力向上に取り組んでいく。(すべての教員が年一回以上の授業公開) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のめあてを明確にし、児童が振り返る時間をとることでわかりやすい授業の評価を得ることができた。 ・感染予防にかかる制約が多い中、工夫して授業研究に取り組むことができた。 ・例年に比べ、様々な制約があったが、カリキュラムや指導法を工夫し、該当学年の学習ができた。 ・ICT機器(スクールタクト、マップんぼ利用)を活用し、授業作りにおいて工夫できた。 ・基礎の反復練習の時間が確保しにくく、定着が不十分な部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き授業中のめあてを明確にし、わかりやすい授業作りに取り組んでいく。 ・既習事項を使った応用問題を解く機会を積極的に取り入れる。 ・学年に応じた反復学習を、学年毎に揃えて取り組んでいく。 ・スクールタクトなど、導入されたICT機器やシステムを活用できるよう、教員研修を行うとともに、積極的に利用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は、めあてや振り返りを明確にし、わかりやすい授業づくりに取り組んでいる。職員研修を積極的に行い、ICT機器の活用等、授業力向上に引き続き取り組んでほしい。 ・漢字・計算の小テストの正答率について、根拠となるデータを示し、今後の指導に活かすことが大切である。
	読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の時間を設けたり、子どもが意欲的に読書に親しむ環境を整えたりすることによって、読書量を増やす。 ・PTA・地域の方々の読書ボランティアを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校一斉の朝読書の時間を週一回設ける。 ・教員も児童と一緒に読書する。 ・読書ボランティアの方を増やすために、学校だよりや学級懇談会などで呼びかける。 ・保護者への啓発。(家庭学習の際に読書を行い、保護者から必ずサインをもらう) ・発達段階に合わせた読書指導をする。(図書だより・本の紹介・読み聞かせ・読書カード・読書カレンダー・学級文庫の充実など) ・本を読みやすい環境を整え、めあてを持たせて、読書できるように指導する。(図書委員会からおすすめの本の紹介を掲示。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおいて、「本を読んでいる」を80%以上にする。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・電子化により、図書の授業での読書の時間が増えた。 ・各教科の単元に合わせて、図書の本を活用することができた。 ・図書委員の活動活動(クイズ、おすすめ紹介など)がきっかけとなり、図書室へ行ったり、本を開いたりする児童が増えた。 ・担任が読み聞かせをしたり、一緒に読書したりすることができた。 ・学校では読書に取り組めていても、家で読書をする習慣がなかなか身につけていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童だけでなく保護者の啓発もかねて、図書だよりを引き続き発行していく。 ・読書ボランティアや図書委員会の活動も、引き続き積極的に行っていく。 ・借りた本を家に持ち帰る声かけをしっかりと行う。(特に高学年) ・担任から本の紹介や読み聞かせをしたり、図書の時間に一緒に読んだり借りたりする。 ・ブックトークを通して、子ども同士で本の楽しさが伝わるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内の読書教育は充実しているが、家庭での読書習慣には結びついていない。 ・借りた本を持って帰らない児童が多く、読書カードも持ち帰らないため、どのような本を読んでいるのか、家庭で把握できない。家庭と学校の連携を進める必要がある。 ・子どもたちが気軽に、もっと自由に読書できるスペースをつくってはどうか。 ・新刊本や人気の本などデータを活用して子どもたちの読書意欲の向上を図るとともに、ホームページや学校通信で紹介するなど、引き続き保護者への啓発をしていただきたい。
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の場の工夫をした授業づくりに取り組む。 ・テーマを与えたり、しっかり取り組めた児童を評価したり紹介したりし、学年の発達段階に応じた自主学習の方法を、身につけさせる。 ・家庭学習に対して保護者への呼びかけを積極的に行う。 ・家庭学習の目標時間に合う課題を提示する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習形態・ワークシート・学習手順(ふきだし法など)・発問・板書・ICT機器の活用など、学習意欲の向上を目的とした工夫を取り入れる。 ・家庭学習の目標時間(10分×学年+20分)を達成させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教職員が、わかりやすい授業に取り組め、90%以上の児童が工夫した授業だと考えている。 ・算数の授業に限らず、めあてを明確にし、振り返りを大切に授業展開を行ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き学習の場の工夫の研究を進め、どの子にも意欲を持てる授業を作っていく。 ・高学年の児童を中心に自主学習の方法を伝え、学習をより自発的に行えるようにする。 ・中学年の段階でも自主学習の仕方を教え、ノート指導や課題の選び方まで指導し、高学年につなげていく。 ・児童が自主学習に取り組めやすいよう、手本を示したり、テーマを与えたりする。また、しっかり取り組めた児童を評価したり、紹介したりしていく。 ・年度始めに、家庭学習の取り組みについて説明し、目標を保護者と共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進行度が違うと、保護者も児童も不安になる。学年単位で児童を把握できる教科担任制や少人数授業等の学習場の工夫を積極的に進めていただきたい。 ・場合によっては、習熟度別の学級編成をし、一人ひとりの学習進度に合わせた授業展開も必要ではないか。 ・職員の入り込みに偏りがあるうえに、児童や保護者が職員のことを知らない場合が多いため、機会があれば紹介してほしい。 ・職員室前の棚をリニューアルし、自主学習への活用を促すのはよいことである。
	特別支援の推進と充実	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援体制の確立 ・個別の指導計画・個別の教育支援計画の活用 ・ともに認め合い、支え合う学級・学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回校内委員会を持ち、個に応じた支援体制・方法を実施していく。 ・低学年で、ひらがな・カタカナ・計算の確認テストを行い、実態を丁寧に把握し、担任と連携しながら支援に活かす。 ・引き継ぎノート、サポートファイル、個別の指導計画を活用し、個に応じた支援につなげる。 ・クラスでの学習にひろがり児童が参加できるように、クラス担任とひろがり担任が連携していく。 ・クラスでの学習に通級している児童が参加できるように、クラス担任と通級担当が連携していく。 ・すべての教職員が、インクルーシブ教育や授業のユニバーサルデザイン化について理解を深める研修を年1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートにおいて「効果的に機能している」「意識しながら授業・学級・学校作りを進めた」の項目で回答した割合を80%以上にする。 ・児童アンケートにおいて「声かけや手助け」の項目で回答した割合を80%以上にする。 ・個別の指導計画を年2回見直し、評価を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートで、支え合う学級、学校作り(A+B)が100%だった。 ・確認テストから、うまく支援につながった子ども達もいた。 ・ひろがり、まなび担任と学級担任が、お互いに連携し合うという意識を持って取り組めた。 ・コロナ対策に配慮しながら、子どもたち同士のつながりを深めることが難しかったのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でもできる仲間作りについて、これからも考えていきたい。 ・普段から細かいことも伝え合うようにして、さらに連携を深めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な児童が増加する中、職員の負担は大きくなっていると思われるが、しっかりと対応しておられる。引き続き、一人ひとりの児童の実態を把握し、校内全体で取り組んでいただきたい。

豊かな心・健やかな体	「命の大切さ」「相手を思いやる心」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「心の教育」を推進する。 ・自尊心を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が児童ひとりひとりのがんばったところやよいところを見つけ、声かけを行う。 ・児童が互いに認め合う機会を設ける。 ・心の匠や外部人材を積極的に招聘し、心の教育を推進する。 ・毎年人権参観を行い、保護者に啓発する。 ・道徳の教科書を持ち帰り、家庭で話し合う機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートで「自分によいところがある」を80%以上にする。 ・児童アンケートで「自分や友だちを大切にしている」を90%以上にする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がひとりひとりのがんばったところ、よいところを認めようという姿勢が子どもたちの自尊心を育てていると思われる。 ・困っている人を助ける子どもも多く、声かけの成果といえる。 ・高学年が「自分に良いところがある」の達成目標を下回った。今年度は高学年らしさを発揮できる場が少なく、異年齢交流もほとんどなく、互いに認め合える機会があまり設けられなかったことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が、ひとりひとりに対してがんばったところやよいところを声かけしていくことを大切にしていく。 ・コロナ禍でも、高学年の自己有用感が高められる取り組みを校内で考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りに認めてもらうことが不登校を減らすことにもつながる。 ・教師が、子どもたちを見る目を養い、声かけや褒め方の技術を向上させることも必要。褒めることで児童と教師のコミュニケーションをとっていき、良好な関係づくりを進めてほしい。 ・異年齢での活動をどんどん取り入れて自尊心を高めていっていただきたい。
	いじめや不登校、問題行動に迅速に対応	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で共有・連携し、継続性・系統性のある指導をおこなう。 ・問題行動のある児童に対して、生活・行動・学習面に関わる支援をおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する児童について、職員全体で情報を共有し、学校全体でいじめや不登校の未然防止に努める。 ・いじめのアンケートを3回実施し、児童の悩みに迅速に対応する。 ・関係機関と積極的に情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「学習や遊びでだれとでもなかよくしようとしていますか」の肯定的回答を90%以上にする。 ・保護者アンケート「生活指導に関するもの」の肯定的回答を90%以上にする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導担当のところに学校全体のあらゆる情報がすぐに集約されるようになり、管理職への情報伝達も速くなり、関係機関との情報共有スピードも速くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳や人権の授業を通して、互いに認め合う学級・学年・学校作りに努める。 ・保護者と連携して、学校全体で不登校の未然防止や不登校児童に対する対応を適切に行っていく。 ・引き続き、本人が「いじめ」と感じるところはしっかりと話をよく聞き、複数の教職員で対応する。 ・校内で小さな情報も共有し、問題行動の未然防止に努め、教職員が連携して生活指導を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに認め合う学級づくりを進めていただきたい。 ・引き続き、生活指導担当を中心に校内で情報共有し、未然防止に努めるとともに、保護者や地域、関係機関と連携して取り組んでいただきたい。
	健康的で基本的な生活習慣を育む態度を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と協力して健康的で基本的な生活習慣を育む態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業明け1週間生活リズムチェック表をつけて、学校の生活リズムに早くなれるようにする。(3学期) ・規則正しい生活ができるようにポスターや保健だよりで呼びかける。 ・1週間生活リズムチェック表を基に、個別指導にあたる。(3学期) ・新しい生活様式に合わせた、保健指導を行う。 ・委員会の呼びかけを通して、保健指導を教員や児童に周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズム表提出率90%をめざす。 ・児童アンケート「早寝・早起き・朝ご飯」において、80%を超える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムチェック表の提出率が低い。 1年(97.5%) 2年(80.0%) 3年(88.0%) 4年(96.5%) 5年(88.9%) 6年(92.0%) ・コロナ禍で健康診断の時などに話をする機会がとれなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物は必ず出す習慣をつけさせる。 ・今回のような状況が続くようなら、教室で養護教諭による出前授業を行う。 ・手洗い動画の作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立は重要である。動画の作成や授業の工夫などに取り組むとともに、保護者への啓発の工夫にも取り組んでいただきたい。
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体力づくり ・スポーツを楽しむ心を養う 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式に合わせて、外遊びを推奨していく。 ・体育の授業を通して、身体を動かす楽しさを味わわせる。 ・ワークシートや活動例集を用い、指導力向上に努める。 ・荻野っ子体操を通して、身体を動かす機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの結果で「運動することが好き」の割合を85%以上にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の好きな児童が減っている。 ・コロナ禍で限られた活動しかできていない(授業)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊び推奨のために、休み時間に児童が好きな音楽を流すなどの工夫をする。 ・活動例集を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力＝学力である。体力をつける取り組みを進めていただきたい。例えば、サーキットレーニングや持久走など、持続した取り組みが必要であると思われる。また、外遊びを推奨するならば、教師も一緒に遊ぶことが必要である。 ・SC21で活動する児童の数が減少している。サッカーとバレーは、来年度から「教室」となる。教職員からも「教室」への参加を呼びかけていただきたい。 ・公園での正しい遊び方や遊具の使い方など、保護者と連携して児童を育てていきたい。 ・指導主事や外部機関から講師を招いて、体の動かし方を教えてもらうのもいい。

開かれ信頼される学校	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。	・学校だよりを年間12回以上、毎月発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを月3回以上更新し、学校情報を積極的に発信する。 ・学校行事の案内を地域に配布する。 ・学校の生活全体の様子を個人情報に留意しながら学校だよりや学校ホームページで積極的に公開する。 ・学校ホームページのおしらせ欄(新規)で、災害時の対応や行事中止等の連絡を発信していく。	・学校だよりを年間12回以上、毎月発行する。 ・学校ホームページを月3回以上更新する。 ・学校行事の案内を配布する。	A	・保護者から「学校公開」において、コロナ禍での制限がある中で、一定の評価を得ることができた。 ・コロナ禍で行事が制限されている中でも、学校ホームページの公開など随時更新し、学校情報の積極的な発信を達成できた。	・来年度の図工展においても地域に発信し、案内していく。 ・学校だよりや学校ホームページの回数を維持しながら、個人情報に留意し、質を向上させていく。 ・学校だよりにQRコードをつけるなど、学校ホームページの存在を知らせる。	・HPについては、こまめな更新が、閲覧数増加につながる。引き続き、学校の情報を伝えていただきたい。
	安全安心な学校作り	・事故・犯罪・災害などに対する対処法や回避法に関する教育を行い、危機対応能力を育む。	・年4回の避難訓練・集団下校訓練を行い、訓練に合わせて自分の身の守り方についての指導を行う。 ・教職員対象に夏季研修で不審者対応訓練及び研修、防災研修を行う。 ・3年生で行う自転車教室や保健、特別活動の時間を利用して啓発冊子等を使って自転車の乗り方の指導を行う。 ・交通安全や災害について、家族で話し合えるようプリントを配布する。	・児童アンケートにおいて「自転車に乗るときに交通ルールを守っている」「避難訓練のとき、きまりを守って自分で避難できる」を回答する割合を90%以上にする。 ・保護者アンケート「家庭で、緊急時の避難や不審者に出会った時の対応について子どもと話し合っている」を85%以上にする。	A	・コロナ禍ではあったが、できることをできる範囲で行うことができた。(避難訓練、研修など) ・低学年の不審者としての対応として「いかのおすし」の学級指導を継続的にできた。 ・新しいマニュアルになり、事前指導などでも活用することができ、何度も目を通し、確認する機会をもてた。 ・今のマニュアルでは、コロナ対応のことが記載されてないので、さらなる改善が必要。	・反省や気づきを元に、またコロナ対応を意識して、マニュアルを改善していく。	・自転車を禁止にするより、乗ってみてルールを学ぶことも必要。ただし、自転車保険の加入率が低いと推測されるため、学校から加入について啓発していただきたい。 ・引き続き、自転車教室や学級での指導を行っていただきたい。
	楽しい学校生活に向けての取組	・すすんであいさつをし、廊下を正しく歩く。 ・学校行事等に進んで参加する。 ・地域行事への参加	・児童会(委員会)を中心に、あいさつや廊下の歩き方を呼びかける。 ・はじめましてタイム・ふれあい週間・ふれあいタイムを年1回実施し、異学年の交流を行う。 ・なわとび大会、盆踊り、グランドゴルフ、地区運動会などへの積極的な参加を呼びかける。	・児童アンケートで「あいさつができています」を85%以上にする。 ・児童アンケートで「廊下を正しく歩いているか」を85%以上にする。 ・児童アンケートで「学校行事にすすんで参加できている」を85%以上にする。 ・ふだんの生活の中でも異学年同士が交流し合う場を増やす。	B	・廊下の天井や階段の右側通行の掲示を増やすことで、意識できる児童がいた。 ・目標は達成できたが、まだ廊下を走っていたり、右側通行ができていなかったりして、危険なことがある。	・学級委員会で階段の掲示物の効果や右側通行の現状について話し合い、改善案を出して、次年度に取り組んでいく。 ・右側通行、廊下を歩くことの声かけや掲示を増やしていく。	・児童が挨拶できるのはよいところである。引き続き、取り組んでほしい。 ・異学年交流は自尊感情を高めるためにも必要である。また、児童が楽しみな学校行事や活動を工夫して行っていただきたい。

学校関係者評価総括
 荻野小学校の教育活動は概ね良好である。家庭や地域が学校に目を向け、子どもたちが将来戻ってくる地域の学校として、学校の情報を積極的に発信するとともに、家庭や地域と連携し、子どもたちが荻野っ子らしく、元気に遊び、のびのびと育つ安心安全な学校づくり、つながり認め合える関係づくりを推進してほしい。

次年度に向けた重点的な改善点
 ①家庭・地域と連携し、基本的な生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立を図る ②一人ひとりの子どもの自尊感情を高める ③ともに認め合い、支え合う学級・学校作り

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った